

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471001022
法人名	有限会社 梨の実
事業所名	梨雲ハウス平戸
訪問調査日	平成23年2月25日
評価確定日	平成23年3月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001022	事業の開始年月日	平成16年1月15日	
		指定年月日	平成16年1月1日	
法人名	有限会社 梨の実			
事業所名	梨雲ハウス平戸			
所在地	(244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1 1 5 6 - 1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【幸水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームの考えを押し付けるのではなく、それぞれのご利用者・ご家族の状況に応じて柔軟に対応し、ご利用者・ご家族・地域の皆で支えていけるような体制作りを心がけています。 ・これまで「梨の実塾」と称して行っていた「認知症とは、その介護の仕方」その他高齢化が進む中での地域と共に暮らす協力のあり方など専門講師を招いての内部研修を今後広くご家族や地域の方々にも参加していただけるようにし、共に理解・成長しご利用者を支えていけるように努めています。 <p>【豊水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く勤めている職員が多いので、ご利用者の変化に対して、すぐに気付きすばやく対応しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年2月25日	評価機関 評価決定日	平成23年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>・グループホーム梨雲ハウス平戸はJR東戸塚駅からバス乗車時間6分で最寄停留所から徒歩3分の交通の利便性に富み、且つ、「嘗てこの地は梨畑でした。土、水、光という自然の中に巡りくる四季を敏感に受け止め、葉を茂らせ花を咲かせ実を育ててきた所です。」と理念冒頭に謳われている通り、今もその名残を感じさせる里山と共に緑に恵まれた住宅街の一画にあり、ホームの庭では野菜、果樹が育てられ、四季折々にその収穫と食卓を賑あわせ楽しんでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の夏祭りや避難訓練など色々な催事に参加をし、また入居者の散歩時にはこちらからの挨拶で梨雲ハウス平戸を知って頂いている。秋には梨狩り、秋刀魚バーベキュー等を計画し、様々なボランティアの受け入れと共に、地域の中学生の体験学習の受け入れを行い、地域との交流を深めている。 ・ホームでは、フルタイムは無理でもパートタイムなら尽力を尽くしたいとする地域の主婦の力を借りることで、ホームの活力とし、ケアへの対応力の向上が図られている。 ・入居者を人生の先輩として、人格や誇り・プライバシーを損ねる事の無いよう、接遇を会議等を通じて職員に徹底している。先輩職員から利用者の接し方等OJTで教え、トイレの誘導や更衣も他人に気付かれない配慮で実施している。 ・看取り介護を行なう方針を持っており、契約時に説明をしている。早い段階から本人、家族の意思を最大限考慮して、家族及び主治医、介護スタッフと繰り返し検討を行い支援に取り組んでいる。実施に当たり、看取り介護の経験を下に、行動指針を具体的に定め、職員も共有認識が図られている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	幸水

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパールーム・事務所の見やすいところに理念を掲示し、理念に添った支援ができる体制作りに努めています。 採用時の面接、採用後のオリエンテーションで理念の説明をしています。 	「この地は嘗て梨畑でした。土地、水、光と言う自然の中で巡りくる四季を受け止めながら実を育てて来たところです。ご利用者が過ごされてきた生活体験を大切に、自分らしく生きるための環境と家庭的な雰囲気の中でゆとりと生きがいの提供を心がけたいと思います。豊かな共同生活を過ごしていただけるようスタッフ一同努力しています。」と謳った法人の理念を見易いところに掲げ理念に沿った支援が出来る様に体制作りに努めている。理念を採用時オリエンテーションで説明し全職員で常に確認しながら共有認識を図っている。介護に当たって理念を読み返しさらに会議等で日々のケアで実践出来ているかの確認もしている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中学生の体験学習の受け入れ、地域のボランティアの方々によるアクティビティの受け入れをさせていただいています。（「尺八の会」と称して歌・踊り・和楽器の演奏・折り紙・マジック、行事として焼き芋・さんまを焼いたり等々） 	町内会に加入して、地域の夏祭りや避難訓練など色々な催事に出来るだけ参加をして入居者の散歩時にはこちらから声をかけ挨拶をしホームを知って頂いている。又、秋には梨狩り、秋刀魚バーベキュー、その他尺八演奏、花見の付き添いなど様々なボランティア支援を受けている。更に地域の中学生の体験学習の受け入れもして、地域との交流を深めている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で事故の報告及び対処や予防方法の説明を行なっています。 内部研修をご家族にも参加していただいています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の継続的な開催を目指すことによって地域の方々・ご家族の方々から多くの意見をだしていただける会議にし、サービスの向上に活かせるような取組みをしています。 	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、ホーム長、代表者、職員の参加のもと平成22年度は2回の開催でホーム概況と今後の行事計画を報告し、また入居者の希望に沿えるボランティアの要請や災害時協力をお願いをして参加者から意見や提案などを頂いている。会議の結果を議事録に残し関係者を始めホーム内でも報告を行い、頂いた意見は検討の上サービス向上に繋げている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 行政による連絡会には参加し、事務所の実情を伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいます。また、職員に参加の機会を持つ事により市町村との連携の大切さを理解してもらえよう努めています。 	行政の連絡会には必ず出席し、区主催のグループホーム連絡会では事業所の情報として重度化する利用者の対応などに加え事故等の報告と諸所不明な点を相談し、助言を求めている。また生活保護受給者の相談では市窓口の生活保護課と連絡交流がある。加えて高齢者支援を行う現場の立場から情報の提供も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の方針である身体拘束をしないケアの実践を心がけています。 ・建物の2階にある為、危険防止上、やむを得ず玄関の施錠は行なっています。 	利用契約書12条8項に利用者の権利として暴力や虐待、身体拘束は受け無いと記し、職員は研修や会議を通じ拘束の弊害も理解している。現在、幻覚、幻聴で屋外に飛び出す方が居て見守りを行うも其の上で家族了解の下、玄関施錠を行っている。職員が常に鍵を携帯して他の入居者の外出機会を妨げ無い様に開閉を心がけ、入居者の負担軽減に努めている。各人の居室には鍵が有り、施錠をする方も居るが、職員による外からの開錠はできる。また家族の了解を得て夜間は防犯上玄関施錠をしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・「虐待」の意味を考え、してはならないという信念に基づいて仕事をしています。 ・会議で取り上げたり、外部研修にも参加して皆で防止に努める体制作りを心がけています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度(補助)を利用されているご利用者がいらっしゃいます。その方を通じて制度とご利用者の関り方などを学ばせていただいています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際には「利用規約書」「重要事項説明書」を一緒に確認させていただいています。 ・不安や疑問点がある場合は、説明できる機会をつくらせていただいています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議や日々の面会の中で、ご意見をいただけるような雰囲気づくりを心がけています。また、いただいた意見は会議などで職員に伝え運営に反映できるよう努めています。 	利用者や家族の意見、要望の窓口を契約書、運営規定、重要事項説明書に明記して、契約時に説明をし、また玄関に掲示もしている。家族の日常的な面会時やケアプランの打ち合わせ時にも、日々の暮らしぶりを伝えると共に、気軽に話し合える雰囲気作りにも努め、家族の意見を直接にも聞いている。出された意見、要望等は全員参加のフロア会議で検討の上、運営に反映させている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことは業務中・休憩時間・会議などで、いつでも言える雰囲気づくりをしています。 ・ヘルパールームに意見箱を設置して都合の良い時に入れられるようにしています。 	月1回のフロア会議で職員間で話し合い提案として意見を出してもらい反映できるよう努めている。さらに各フロアに意見箱を設置し、いつでも意見が述べられるようにしている。加えて管理者と職員の間は日常会話はもとより、時折のお茶や食事会、新年会、忘年会等を通じて仲間として何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて意見要望などを聴いて運営に反映されている。費用を伴う内容案件等は管理者を通して社長決済を得て反映させている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の職員の生活スタイルを考慮し（時間帯・時間数・日数）環境・条件の整備に努めています。 ・日頃より職員の確保に努め、緊急時等の対応に十分応えられるように努めています。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に様々なテーマ（職員からアンケートをとる）で内部研修を行い、職員の学びたいという気持ちを大切にしています。出席できなかった職員にはDVDの貸し出しを行なっています。 ・外部研修の参加を呼びかけて、出席者は会議で皆に報告してもらっています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム協会等の説明会をはじめ、交換研修に積極的に参加し現場での質の向上に努めています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前後にご家族・ご本人から趣向などの情報をいただきサービスにあたるようにつとめています。 ・言葉だけでなくご利用者の表情・行動などから気持ちを推しはかり、寄り添った関係作りに努めています。 ・ケアプランを作る前のご家族との話し合いの際に、ご本人が同席可能な場合は直接お話を聞かせていただいています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居にあたって、ご家族とは時間をかけて話し合い要望に耳を傾ける努力をしています。 ・小さな変化などを面会時やお電話でお伝えするようにしています。（ご家族が気になっていること・ホームが気になっていること） 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居前に数回のアセスメントをさせていただき、十分な話し合いの中から必要としている支援を探すことに努めています。 		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で、ご本人がやりたいこと・できることを探して協力し合っています。（掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ・配膳補助・野菜運び・調理補助等） 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との信頼関係を築きつつ、行事の参加、協力をしていただいています。 ・ご家族と過ごされる時間を大切にさせていただけるように環境作りや雰囲気作りに努めています。（食事の介助・散歩・外食・散髪等々） 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より親族や友人の面会を受け入れ、外出・外泊（ご家族の付き添いのもと）も自由にしていただいています。 ・ご長女のバレーボールの試合の応援に行かれたり、地区センターのお祭り、お正月の箱根駅伝、入居前によく行かれていたお店に出かけています。 	<p>これまでの本人と関わりの場所や人間関係の把握は、日ごろの会話や家族からの情報等で把握している。知人、親戚の方との面会や外出の他、通い続けて来た「教会での日曜日の礼拝、に加えて昔からの行きつけの美容院やレストランに通うなど人間関係を保ちつつ地域に暮らし続ける事への支援を家族の協力の下に行なっている。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者同士の関係性の把握に努め、皆が集団生活の中で円滑・快適に過ごして頂けるように支援させていただいています。 ・ご利用者の孤独感や不安感からおこる争い事も職員が間に入るにより温かく受け止めています。レクリエーション等では苦手なことを手伝わさせていただき事で皆が一緒に楽しめるように努めています。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去された方、そのご家族にいつでも立ち寄っていただける環境を整えています。（ご家族よりパッチワーク・クリスマスカード・おせち料理の差し入れ等していただきました。） 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉によるコミュニケーションだけでなく、ご利用者の言葉にならない思いも汲み取る支援を心がけています。 ・誕生日会は個別に行い、大切なひと時を受けとめていただけるように努めています。 ・理解されている方にはケアプラン作りに積極的に参加していただき意向を尊重しています。 	生活暦や家族の話しから意向を把握している。入居後は想いが話せる利用者には直接聴いたり、会話が難しい場合は寄り添う事での表情観察から、思いや意向を把握している。「家に帰りたい」の想いが強い入居者の対応として家族とのタイアップで毎月2～3日帰宅しご主人との食事、買い物など家庭生活を楽しんでいる事例や、自室で花を育て、毎年の開花を楽しんでいる方の支援など本人本位の思いに添える支援が行われている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントによる情報収集をはじめとし、ご家族のお話、希望をもとに会議等において把握するよう努めています。また、日々の生活の中での何気ない会話から、いろいろな事を聞かせていただきご利用者の理解に努めています。 ・以前のグループホームで新聞を取られていた方には、こちらでも継続して取っていただいています。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の申し送りでも食事・水分・睡眠・バイタルなどの基本的な情報や何か変わったことがないかなど報告し、話し合うように努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成時だけでなく、日頃からご利用者やご家族と希望や困っていることなどを話し合っています。安心して生活出来るようにケアプランの作成を心がけています。 ・体調の変化があった場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合い共に方向性を考えています。 	介護計画の見直しは基本6ヶ月で3ヶ月に中間見直しの検討が行われている。ただし状態に変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。一人ひとりに適した具体的内容とする為、カンファレンスで日常生活の記録のアセスメントの確認に加え職員の経過観測結果に基づき意見を述べ合っており、家族や計画作成担当者との話し合で、「何々したい」の想いを踏まえてその人が持つ能力が発揮できる介護計画を立案している。またモニタリングは日々評価判定を記録して実行している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌・個別ケース記録・ヒヤリハット報告などに変化や気づきを記録し確認するよう努めています。 ・毎朝の申し送りや毎月の会議のカンファレンスで職員の介護方針の統一を図るよう努めています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の畑で苗植えや収穫（なす・ミカン・イチジク・いも等）を一緒に楽しめるよう支援しています。 ・内部研修の対象をご家族にも広げて参加できる方には参加していただいています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアの協力のもと、尺八・菜園・歌や踊り・折り紙・絵手紙・フラダンス・車椅子の点検まで様々な面で関わっていただいています。ご利用者が安心して豊かな暮らしができるよう努めています。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時にご家族の希望に添った医療機関での受診を支援しています。（遠くの病院の場合も定期的に職員が同行し、できない場合もメモ・電話などで状況をかかりつけ医に報告しています。） ・ご利用者の体調の変化に応じて相談・指示していただけるよう、かかりつけ医との信頼関係を築き適切な医療を受けられるよう努めています。 	利用者の希望で在宅時からのかかりつけ医の継続診療は現在3人が継続診療を受けて受診結果を家族と共有して家族の不在時にも対応が出来るようにしている。ホームとしては利用者の急変に備えて近くの4開業医（菅野、さいとう、半田、内科&皮膚科医院、東戸塚記念病院）にバックアップ医として24時間対応をお願いして信頼関係を構築し利用者が常に適切な医療を受けられるよう支援をしている。家族の希望により通院介助支援も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師の訪問時に日々の状況をお伝えし、また気になる事があった場合は電話で相談をさせていただきました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にはADL表をお渡しするとともに状況をお話ししています。 ・入退院時の医師からの説明には、ご家族の同意を得た上で同席をさせていただいています。 ・入院先への面会から情報収集に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族の思いをもとにし主治医・職員、三者による共通意識の共有に努め、ご家族とはケアプランの作成の度に「思い」を確認しています。 ・実際に看取りをさせていただいた時も主治医や看護師の方から関り方や職員の心構えなどメンタルな面も学ばせていただきました。	・終末期の対応として適切な看取り介護を果たせるよう先ず契約時に看取りについて説明をして、早い段階から本人、家族の意思を最大限考慮して家族及び主治医、看護師、介護スタッフと繰り返し検討を行い支援する。実施に当たり看取り介護の経験を下に行動指針を具体的に定めている。ホームの職員も共有認識している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員は普通救命講習を順次受講しています。 ・内部研修では知識・技術の向上に努めています。 ・急変時の連絡体制をヘルパールームに貼っています。 ・緊急時に駆けつけられる職員のリストを作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の指導のもと、年2回ホームで防災・避難訓練を行なっています。 ・近隣の方々へ協力の呼びかけを行なっています。 ・町内の防災訓練に参加させていただいています。 ・防災用品の備蓄の検討・準備をしています。	さまざまな災害を想定し、ホームでは定期的に消防署の指導の下に年2回、昼夜を想定した防火訓練を行っている。さらに災害時通報連絡網の整備に加えてマニュアルに沿った研修も行い、初期消火活動、避難誘導や広域避難場所の説明、災害時の行動手順等の確認を行っている。地域の防災訓練にも参加し又運営推進会議を通じ、ホームがして貰える事とホームが出来る事での役割などを話し合っており、近隣の方々へ緊急時の協力を依頼している。災害時非常食及び備品の備蓄は行なっている。設備としてスプリンクラーも設置予定で完成待ちになっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・人格やプライバシーを損ねることのないよう会議・研修などで職員の意識の向上に努めています。 ・特に、排泄・入浴・更衣の時には、さりげない声かけなどにより自尊心を傷つけないよう気をつけています。 ・他のご利用者との関係の中で職員が間に入る事により一人ひとりを尊重できるように配慮しています。 	<p>人生の先輩として、入居者一人ひとりの人格と誇りやプライバシーを損ねる事の無いよう、「接遇」を月間目標に掲げ会議などを通じて職員に徹底している。入社時のオリエンテーションで個人情報の取り扱いと守秘に付いて説明している。先輩職員から利用者への接し方などOJTで学ばせトイレの誘導や更衣は他人に気付かれない心配りと配慮での声かけ等を全員で共有している。調査時に利用者の人格を尊重した話しかけと呼びかけでトイレ誘導がさり気なく行われている事が確認できた。</p>	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の一方向的な働きかけではなく、ご利用者の意思・希望により可能な方には自己決定していただけるように働きかけています。 ・ご自分から自己決定を積極的にされない方に対しては表情や様子を伺いながら、声かけをするようにしています。また、ご本人の思いや希望を表現しやすい雰囲気づくりが大切かと考えています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者一人ひとりのペースを大切にされた対応を心がけています。 ・体調を考えて起床や食事の時間をずらすなど個々のペースを大切にしています。 ・動作はゆっくりだが自分でできることはしたいという方には、そのペースを尊重して見守りをしています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えの時には、好みをお聞きするように努めています。 ・鏡を身近に置くなどして環境づくりを心がけています。 ・季節ごとに衣替えをしてご利用者が分かり易いようにしています。 ・お好きな方には口紅・マニキュアなど楽しみながらつけていただいています。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの見やすいところにメニューを掲示しています。 ・食材の配達時に一緒に運んだり、可能な方には配膳・下膳をお手伝いしていただいています。 	<p>献立にはホームの畑で収穫した季節野菜や魚、肉、のメニューを入居者に書いてもらって目に付くところに掲げて、楽しみながら調理下ごしらえで餃子の包み、もやしのひげとり等を職員と共に出来る人に手伝ってもらい、配膳下膳も行われている。又食事では刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせた食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話を楽しみながら食事支援が行われていることを調査時の食事同席で確認できた。リクエストは外食なども交え応え誕生日にはケーキを作り、正月、敬老の日、クリスマス等には特別食で支援をしている。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事水分チェック表を作成して職員全員が把握できるようにしています。(水分の少ない時だけでなく、水分制限のある方もいらっしゃるので気にかけています) ・個々の状態に応じた食事の形態を取り入れています。(お粥・キザミ・ミキサー) ・体重増加傾向の方には主治医と相談しながら食事量を調整しています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアの実践に努めています。(ミキサーの方にはガーゼでふき取り清潔を保つようにしています。ご自分で歯みがきをしていただいたうえで磨き残しを介助しています。) 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自分でトイレに行かれない方には、ご本人におききしたり、パターンを把握して誘導させていただいています。 ・立位の取れない方は二人で対応するなどして、なるべくオムツにしない支援に努めています。 	「排泄チェック表」により一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し朝食後の排便し易い時間帯に、タイミングを見計らってのさりげない言葉かけでトイレ誘導が行われている。立位の取れない方にも2人対応でトイレ誘導をして、また失敗した場合でも周りの方に気付かれない配慮をしながら、日中オムツのない生活を目指し使用量を減らす工夫と寝たきりにしないという理由からもトイレでの排泄の自立支援が行われている。一方便秘対策として繊維の多い食物の摂取と水分補給、体操を行って対策に心掛けている。自力で排泄を試みる事で夜間においても睡眠時間の関係も考慮に入れて、声かけを原則として支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄表を作成し、食事・水分摂取等のバランスに配慮し自然な排泄を促すことに努めています。 ・朝食後に便座に座っていただきリズムを作れるように努めています。 ・毎朝、ヨーグルトをお出しして便秘が改善されるように努めています。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活なので、ある程度の時間帯は決めておりますが入浴前には必ずバイタルチェックをし、体調を見極めてから入っていただくようにしています。 ・その方のADL・身体状態によりリフト浴・一般浴・シャワー浴と柔軟に対応しています。また、季節を感じていただけるよう菖蒲湯・柚子湯など楽しんでいただいています。 	入浴は、清潔保持、身体観察、体調変化の把握などが重要な役割があると考え、バイタルチェックと共に無理強いすることなく本人の意向を確認しながら一人ひとりの希望に合わせ、週3回の入浴をタイミングを見計らって行ない体の不自由な方はリフトで支援をしている。更に希望の方には毎日でも対応しているが、いやがる人には再度の声かけ等で入浴を促している。季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの睡眠パターンに応じて好きな時間帯に休んでいただいています。また、体調に合わせて日中も横になっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・配薬表を作成し服薬の目的・用法・効能が確認できるようにしています。 ・血圧の薬の変更があった場合には表を作成して、変化を見逃さないようにしています。 ・副作用などを主治医・薬剤師からお聞きし、変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除・洗濯など関わっていただけるよう声かけをし、日々のアクティビティの中で役割を担っていただいています。 ・「尺八の会」「フラワーアレンジ」など毎月楽しめる機会を作っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お天気・体調の良い日は戸外で体操や散歩が出来るよう支援しています。 ・ご利用者の希望を取り入れ、近くのコンビニやホームセンターでのお買い物や外食の支援に努めています。	天気の良い日には利用者の体調をみて、希望を聞いて無理強りする事無く、菜園や近くの公園への散歩に出かけ、体操なども行い、時には駅周辺の商店街での買い物や、レストランで外食も行っている。散歩を日課として楽しみにしている方もいる反面、車椅子使用の為断る方や、あまり出たがらない方もいるが、日々の関わりの中から希望を聴いて誘って車椅子の方にも外出が出来るよう支援を心掛け買い物や喫茶店に行ったりしている。家族とも相談しながら遠出外出なども計画している。ドライブと称して車椅子の方の対応も兼ね「羽田国際空港」見物や「八景島シーパラダイス水族館」「大岡川桜見物」なども行なっている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自分でお金を所持されている方がおります。そのお金でCDなどを買われています。（こちらでもお金の動きを把握できるようにレシートをコピーさせていただいています。） ・他の方も所持はされていませんが、お買い物に出かけた時は預り金の中から購入していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 希望される方は、ご家族に電話をつないでお話していただいています。 毎年、職員がお手伝いして年賀状をご家族にお出ししています。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 季節の飾り（書初め・桜・アジサイ・ひまわり・花火等）をその時期に応じて替えています。 月2回のフラワーアレンジで季節のお花を楽しんでいます。 照明についても気をつけています。 	玄関、階段、トイレ、風呂、全てに掃除が行き届き異音、異臭なども無く、採光も良く、キッチン続きの食堂兼居間には畳のスペースも設けられていて空調管理も施され、ソファも置かれ入居者が思い思いに過ごせる様になっている。四季を感じさせる花も生けられ入居者が作った作品のパッチワークに加え暮らしがわかるスナップ写真も貼られ、家族の来訪時には話題作りとして利用されるなど、くつろげる空間作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 思い思いの場所（居室・リビング・和室）で過ごしていただいています。 基本的な席は決まっていますが、お話をしたりトランプをしたり、場面に応じて好きな席で過ごしていただけるよう支援しています。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室には、馴染みのある家具（たんす・椅子・テーブル・テレビなど）や好きなポスター・ご自身で描かれた塗り絵を貼られたりして、安心感のある居室づくりに努めています。 馴染みのものを置かれていない方は、ホームでの思い出の品を飾っています。 	入居者各人の部屋にはベッドをはじめ整理ダンス、花瓶、仏壇、位牌人形など使い慣れた物と家族の写真や、趣味で描いた絵などが飾られ、それぞれの思いに合わせた設えて居心地良く過ごせる様に工夫がされた生活拠点が作られている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 建物内はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室には手すりを取り付けてあり、安全に配慮しています。 時計・カレンダー・生活ボード・献立表を置いてメリハリのある生活の場になるよう心がけています。 居室に名札を掛けたり、トイレの明かりは場所の掲示をして、分かりやすくしています。 		

目 標 達 成 計 画

事業所

梨雲ハウス平戸
ユニット幸水

作成日

平成23年2月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	日々ご利用者の状況が変化中、情報の共有が徹底されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の出勤頻度による認識の差を少なくする。 ・「知らなかった」という事がないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の記入と読む事の徹底。また、声を掛け合う。 ・申し送りを大切にしてお前日からの様子を確認し、流れが分かるようにする。 	1 2 ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	豊水

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			・老人会のボランティアグループの訪問していただいています。
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパー室・事務所の目につくところに、理念を掲示し常に基本に立ち戻り皆で共有し、日々の生活の中で実践できるように努めています。 新職員には採用時の面接において理念の説明をしています。 		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティアの方々に支えられて獅子舞・梨狩り・サンマの会・焼き芋の会などの行事が行われています。 9月・11月に行われた町内会の防災訓練に参加し、地域の一員として18名の高齢者が共に生活していけるよう積極的に取り組んでいます。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 老人会のボランティアグループの訪問していただいています。 地元の中学生による福祉体験学習に毎年協力しています。生活の様子を見ていただくことにより、認知症の理解を深めていただけるよう努めています。 包括支援センターにて民生委員、他事業所の方々にご利用者の暮らしぶりをお話しして共に役立てるよう考えています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 5月・10月に開催しました。本年度になり5家族が入れ替わり、以前にまして参加者が増え雰囲気も変わりました。防災について話し合った時には率直な意見をいただき、これからの運営にいかしたいと考えています。 		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 行政による連絡会などには積極的に参加しています。生活保護受給者・ご家族の援助が得られない方について、各担当者に相談しています。 区内のグループホーム相互研修では重度化するご利用者への対応、日々の生活等の情報交換を行っています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止を理由に身体拘束はしていません。転倒の危険性のあるご利用者には出来る限り傍について見守りをしています。 ・パニック・幻聴により屋外に飛び出される方がおり、やむを得ず玄関施錠をしています。職員が常時鍵を携帯し、不自由な思いをさせないよう外出の機会を多くとるよう努めています。 ・気候が良く皆が庭に出ている時などは玄関ドアを開放し、気分転換に努めています。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄時・入浴時等身体に変化（あざ・傷）があるか観察しています。 ・言葉の暴力に対してもフロア会議等で話し合い確認しています。 ・拒否等が強く支援の難しいご利用者については一人で抱え込むことなく、会議であるいは個別に話し合っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見人制度を活用されているご利用者がおります。 ・成年後見人（ご家族・司法書士等）の方と入院手続き・資産管理等々相談することで、学ばせていただいています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に重要事項説明書を丁寧に説明し当ホームで出来る事・出来ない事を理解していただくことに努めています。又、その都度、ご家族の不安や疑問にこたえられるよう、話し合う時間を設けています。 ・入居年数が長くなり重度化に伴う不安・負担についても話し合う時間を設けています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際、外部・内部の苦情窓口を説明し連絡先を玄関の見やすい所に掲げています。 ・面会時・ケアプランの打ち合わせ時・運営推進会議・行事等の中で要望・相談、ご家族同士での意識のすり合わせ等、気軽に話し合えるよう心がけています。 ・いただいた意見はフロア会議等の中で話し、運営に反映しています。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の梨の実会議・フロア会議等にて職員の意見・提案・希望を拾い上げ、話し合っています。 ・各フロアに意見箱を設置し、自由に意見を述べたり話し合う機会を作っています。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の職員の生活スタイルを考慮し（時間帯・時間数・日数）職場の環境整備に努めています。 ・緊急時の対応、突発的な事情による欠勤・休職に柔軟に対応できるよう努めています。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的（2～3ヶ月）に梨の実塾を開催し介護技術、知識の向上に努めています。 ・外部研修・内部での勉強会で学んだことをフロア会議で報告し学ぶ機会を作っています。また、周知してもらえよう努めています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム間での交換研修を通し、お互い職場内で行き詰っている仕事の悩みを共有し、解消を図れるよう努めています。 ・地域の他事業所と連携し、地域全体としてのサービスの向上を目指しています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居前のアセスメント時に、生活のベースとなる場所に伺い、生活環境・状況を把握しています。本人に向き合い、希望や不安な思いを受け止め、安心して入居していただけるよう努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の立場に立ち、悩み、不安、要望を受け止めることに十分な時間をかけることを心がけています。 日常生活での様子・身体の変化等を小まめに報告することで話しやすく、相談しやすい関係性を築けるよう努めています。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 相談時のご本人・ご家族にとって何が必要かを見極め、少しずつ慣れ、安心して生活できるよう努めています。 		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 生活を共にする者として一緒に食卓を囲み、喜怒哀楽を共にし安心して生活できるようにしています。そして入居前の暮らしぶりやご希望等をお聞きし、できることをしていただきながら生活できるよう支援しています。（洗濯たたみ・食事のメニュー書き・裁縫） 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 面会時間の制限をせず、ご都合の良い時間に訪問していただいています。 ご家族の気持ちを受け止め共にご利用者を支える対等な関係になれるよう努めています。又、ご家族との絆を大切に良い関係が築けるよう努めています。 ご家族と相談の上、毎月ご自宅に外泊される方がいます。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご家族・親戚・知人等の面会外出はご自由に行っています。日曜日に教会に行かれる方、行きつけの美容院に出かける方等なじみの関係を保てるよう努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員の声かけにより、毎朝の体操・歌・言葉遊び等アクティビティーを楽しんでいます。 ・ご利用者同士の相性・個性を考え席替えをしたり、トラブルにおいても様子を見て職員が間に入ることで良い関係を築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去されたり、入院されてる方の訪問・面会などで今までの関係性を保てるように努めています。 ・ご家族がホームにお見えになり現在の状況報告・これからの相談等、話し合いの時間を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・「家に帰りたい」という希望の強い方には、毎月3～4泊の中でご家族との食事・お買い物を楽しんでいます。 ・好きなお花を居室で育てたり、食事やお買い物に行ったり、一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。 ・意思疎通の難しい方には向き合えるよう努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今までの環境を変えずに、ご利用者と相談しながら親しみやすいお部屋作りに努めています。 ・なじみの床屋さんなどに行ったり、来ていただいたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝の申し送り・会議などでひとり一人の心身状態を理解・共有し、食事・睡眠・排泄などの生活のリズムを把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の「～したい」という気持ちを大切にしながら計画を立てています。また、ご利用者の望む生活、意欲を引き出せるようご家族と相談、話し合っています。 ・毎朝、申し送り時に変化・気づきを報告し、現状にあったケアに努めています。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌・個人記録に日々の様子を記録しています。特に緊急・変化等のあった場合は報告し、内容をボードに貼り情報の共有に努めています。 ・夜間ノートや申し送りノートの充実に努め介護意識の向上に努めています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族の状況を踏まえ、受診・面会・外出・外泊等柔軟に対応しています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・友愛活動チーム・尺八・車椅子のメンテナンス・畑のボランティアの方々が定期的に訪問しています。地域の方々の力を借りてご利用者・職員も一緒に楽しんでいます。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者各々、定期的に受診あるいは往診を受けています。 ・緊急時はかかりつけ医の指示をおおぎ対応に努めています。 ・かかりつけ医とは良好な関係を築けるよう心がけています。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護師の訪問を受けています。 訪問時、日々の変化を報告し、早急に対応が必要と思われる場合は医師に連絡・相談し、指示をおおぐようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、詳細な情報をお知らせしています。 また、退院にむけて医師・看護師とは前もって打ち合わせをしており病院からのサマリーにそって対応をしています。 ・急変時は、速やかに報告し指示を仰いでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ケアプラン時、ご家族の意向を伺い、その旨をかかりつけ医にお伝えしています。状況によってはご家族・かかりつけ医・職員の三者の話し合いを持つことで方針の共有に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日中・夜間等の急変・事故時のマニュアルは目につくところに掲示しています。 また、ケアプランに各ご利用者の対応、連絡方法等が記載しています。 ・普通救命救急の講習は順次、受講しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域の防災訓練に参加しホームの状況を把握していただいています。 ・避難訓練を行い災害時の対応を身につけることに努めています。 ・災害発生時に備えて、防災用品・備蓄等の物品の準備について検討しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・月間目標に「接遇」を掲げ、会議等で具体的に言葉遣い等について意見を出し合い、話し合いの中から現場での実践に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご家族への面会希望の支援・外出の支援をしています。また、ご家族への電話希望の取り次ぎなどを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・お食事・お茶の時間等、声かけしますが個々の体調の様子を見て時間をずらせるなどしています。一人ひとりのペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・散髪は定期的に行っています。 ・季節に合った服装をしてもらえよう相談、自己決定していただいています。 ・入浴時、着替えをご自分で選んでいただいたり、行事・外出時には外出着に着替え楽しんでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・本日の食事のメニューを書いていただいています。 ・食事の配膳・片づけを職員と一緒にいただいています。 ・畑でご利用者と一緒に野菜や果物を収穫しております。その野菜を皆で一緒に食し、喜び楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の食事量・水分量を記録しています。 ・個々の状態に合わせてミキサー・盛り付け分量等工夫しています。 ・水分摂取の少ない方には、声かけ・好物をお出しして摂取していただけるよう努めています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食前うがい等をして誤嚥の予防に努めています。 ・食後、強要はせず根気よく声かけして口腔ケアに努めています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンを考慮しトイレ誘導を心がけています。 ・立位のとれる限り、日中はオムツを使わないようにしています。 ・特に、食後は排泄しやすい時間帯なのでトイレに誘導しています。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜ジュース・ヨーグルト・プルーン等を摂取していただいています。（現在、経過は良好です） ・体を動かせるご利用者には、日々の体操等での適度の運動を働きかけています。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調・ご希望等を鑑み、声かけをし入浴準備をしています。 ・菖蒲湯・柚子湯・みかん湯など（地域の方々の協力）季節を感じていただけるようにしています。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの体調に合わせて休んでいただいています。 昼夜を問わず、居室の明暗・室温・湿度・音・整理整頓を心がけています。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 配薬表を作り、それぞれの薬の説明書を添付し理解・周知するよう心がけています。 変更時は、連絡・報告・掲示するなど速やかに対応するよう努めています。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 水分量・食事量等、思うように摂取出来ないご利用者には口当たりの良い、好きなものを考えてお出ししています。 お天気の良い日には、お散歩、お買い物をして気分転換に努めています。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 体調を見てお散歩・ドライブなどを楽しんでいます。 ご家族・知人と近くのファミリーレストランで喫茶・お食事を楽しまれています。 ご家族とのお買い物に出かけられます。 嗜好品を買いに近くのコンビニに出かけます。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の了承を得てお財布にお金を所持し、確認をして安心されています。 ご本人のご希望の物を購入する為に一緒に出かけ、お買い物のお手伝いをしています。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・絵手紙を作成し季節ごとにご家族・知人の方々にお出ししています。 ・ご家族・ご利用者の希望により、電話の仲介をしています。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下・リビング・居室にご利用者の作品や季節に応じて行われた行事の写真を貼って楽しんでいます。また、ご家族には日々の生活を見てもらえるよう工夫しています。 ・月2回のフラワーアレンジもリビングに飾ってあります。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・和室にソファを置き、好きな時間に腰掛けていただけるようにしています。 ・思い思いに動いていただけるよう危険・事故のないようフロアの様子を見守っています。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた物を持って来ていただいています。 ・配置についてもご利用者・ご家族と一緒に考え安全について相談の上、取り組んでいます。 ・横になられても、絵・写真・季節のカードが見れるよう工夫しています。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りでトイレ・居室の行き来が出来るような空間を作るよう努めています。 ・横になられている時間が多いご利用者にはリビングから目の行き届くお部屋に移っていただくなど考慮しています。 ・皆で干せるよう洗濯物干しさおの高さを工夫しています。 		

目 標 達 成 計 画

事業所

梨雲ハウス平戸
ユニット豊水

作成日

平成23年2月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	入居期間がながくなり、スタッフとご利用者の距離が縮まることにより、言葉遣いや対応が親しみ→慣れに変わり、節度ある対応ができなくなる。	職員の質の向上	接遇はとても奥が深く一言では表されないがテーマを決めてフロア会議などで話し合う。	1 2 ヶ月
2	18	アクティビティや行事などには積極的に参加するが、日常生活の家事等には参加せず座っているご利用者がいる。	職員と一緒に関わる事で、生活しているという意識が生まれる。	食器の後片付け、テーブル拭きなど時間をかけ、声かけをして行く。	1 2 ヶ月
3	25	身体の状況により居室で寝たまま過ごすご利用者、あまり言葉を交わすことのないご利用者とは会話をするチャンスが少ない。	一日の始まりを意識して生活をスタートさせる。	朝、フロアに入った時まず、ご利用者に挨拶「よく眠れましたか」等々、話しかけてみる。	1 2 ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。